

○歯科矯正学：632-4-DP1・DP3・DP4・DP6

年次	学期	学則科目責任者
4年次	前学期	*葛西 一貴 (歯科矯正学)

学修目標 (GIO) と単位数	<p>・単位数：3単位</p> <p>・学修目標 (GIO)：顎口腔機能の向上と顔貌の改善をはかり、ひいては生活の質的向上に寄与できるようにするために、歯・顎顔面頭蓋の成長発育やその後の増齢に伴った正常な形態と機能をはじめ、顎の異常な関係や不正咬合の病態を把握したうえで、それら諸構造の状態を修復、もしくは予防する能力を身につける。</p>
担当教員	*葛西 一貴、*五関 たけみ、*榎本 豊、*根岸 慎一、*石井 かおり、*清水 真美、*菊田 純、*疋田 拓史、*石川 貴博、*今村 竜太郎、*鈴木 雄士、*佐藤 友紀、*杉森 匡、*中山 瑛加、*湊 友香里、*山下 公子、*葛西 絵美、*小松 昌平、*後藤 瞳、*齋藤 奈月、*齋藤 勝彦、*高橋 治
教科書	歯科矯正学 第6版 飯田順一郎、葛西一貴、後藤滋巳、末石研二、榎 宏太郎、山城 隆〔編〕 医歯薬出版 歯科矯正学基礎実習書 葛西一貴 編集 わかば出版
参考図書	混合歯列期の矯正歯科治療 後藤滋巳、葛西一貴、三浦廣行、氷室利彦 医歯薬出版 新版 プロフィットの現代歯科矯正学 William R. Proffit (高田健治 訳) クインテッセンス出版 チェアサイド・ラボサイドの矯正装置ビジュアルガイド 後藤滋巳 他 編著 医歯薬出版
評価方法 (EV)	(講義) 平常試験 (4回実施) で評価する。 (実習) 実習評価によって評価点とする。実習態度も評価点に加味する。 歯科矯正学の評価は講義 (80%) および実習 (20%) の合計で行う。なお、講義・実習それぞれ1/5以上を欠席した場合、評価点は0-60点とする。また、講義・実習のいずれかが合格点に達しない場合、歯科矯正学の評価点は60点未満とする。 ただし、平常試験の平均が60点未満の者には再試験を実施し、その評価点を0-60点とする。
学生へのメッセージ オフィスアワー	近年不正咬合が増加しているといわれているが、その原因と診断について楽しみながら学んでいただきたい。また、ダイナミックな歯の移動により得られたきれいなかみ合わせや顔貌の改善の様子などをみて、矯正学への興味を深めていただきたい。また、実習を通して不正咬合の治療がどのような装置によって行われるか、歯がどのように動くのかを理解してほしい。 e-mailによる質問を受け付ける。 歯科医師の実務経験を活かして、歯・顎顔面頭蓋の成長発育や増齢に伴った正常な形態と機能をはじめ、顎の異常な関係や不正咬合の病態を把握し、それら諸構造の修復および予防について解説する。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/04/06 (月) 2時限 10:40~12:10	<p>〔講義〕第1回</p> <p>・歯科矯正学の歩みと定義</p> <p>・歯科矯正学の意義と目的</p> <p>・成長発育概論</p>	<p>【授業の一般目標】</p> <p>不正咬合をもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、歯科矯正学の歩みと定義・歯科矯正学の意義と目的・成長発育概論について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 不正咬合による口腔機能障害を列挙できる。 3. 矯正治療の目的を述べるができる。 4. 成長発育と年齢 (暦齢、生理的年齢) との関係の説明できる。 5. Harris と Scammon の成長発育パターンについて述べるができる。 6. 骨の成長様式を説明できる。 7. 成長発育の評価法および臨床上的利用意義を説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目：①矯正治療とはどのようなものか ②HarrisとScammonの臓器発育曲線について ③生理的年齢について *歯科矯正学 (第6版) p1-23を 読んでくること。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：無 学習媒体：授業配布プリント、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 8 人体の成長・発達・加齢 イ 発育区分における成長・発達の評価 a 身体成長の評価法</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口腔・顎顔面領域の発生と加齢変化</p>	*葛西 一貴

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/04/06 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第1回 ・歯科矯正学の歩 みと定義 ・歯科矯正学の意 義と目的 ・成長発育概論	②口腔・顎顔面領域の成長・発育を説明できる。	*葛西 一貴
2020/04/06 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕第2回 ・頭蓋の成長発育 ・顎顔面の成長発 育 ・口唇裂,口蓋裂 および顔面裂	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、頭蓋の成長発育・顎顔面の成長発育・口唇裂,口蓋裂および顔面裂について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 脳頭蓋と脳頭蓋底の成長発育様式について述べるができる。 3. 顔の成長発育および口唇裂の発生様式について説明できる。 4. 顔面裂の発生様式について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①頭蓋の成長発育の特徴について ②上顎および下顎の成長発育の特徴について * 歯科矯正学 (第6版) p24-42を読んでくること。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学習媒体：配布プリント、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の発生・成長・発達・加齢 ウ 口腔・顎顔面の成長・発育 b 上顎骨・下顎骨の成長の特徴 (成長の時期、骨形成様式)</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口腔・顎顔面領域の発生と加齢変化 ②口腔・顎顔面領域の成長・発育を説明できる。</p>	*根岸 慎一
2020/04/06 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第1回 ・器具貸与・点検	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正学実習で使用する器具の用途について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 矯正学実習で使用する器具の用途について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：矯正装置の製作に用いる器具・器材について 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有：貸与される矯正治療で使用する器具についてその使用法を各自で確認する。 学修媒体：貸与器具 (各種プライヤー、バンドプッシャーなど)、器材 (スポットウエルダー、タイポドントなど) 参考図書：歯科矯正学基礎実習書 わかば出版</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VII 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 e 不正咬合の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ④矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。</p>	*葛西 一貴 *五関 たけみ *榎本 豊 *石井 かおり *清水 真美 *菊田 純 *疋田 拓史 *今村 竜太郎 *杉森 匡 *中山 瑛加 *葛西 絵美 *小松 昌平 *齋藤 奈月 *根岸 慎一 *石川 貴博
2020/04/13 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第3回 ・咬合概論 ・正常咬合 ・不正咬合	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、咬合概論・正常咬合・不正咬合・不正咬合のとらえ方・不正咬合の分類について学ぶ。</p>	*根岸 慎一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/04/13 (月) 2時限 10:40～12:10	<ul style="list-style-type: none"> 不正咬合のとらえ方 不正咬合の分類 	<p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 正常咬合の種類および矯正治療目標について説明できる。 正常咬合が成立し、かつそれが保持されるための条件を述べることができる。 永久歯列期の正常咬合の概念について説明できる。 不正咬合の病因・病態およびその疫学的特徴を列挙できる。 個々の歯の位置異常およびその用語について説明できる。 上下歯列弓の咬合関係の異常について、先天異常も含めて説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目：①顎位と咬合について ②咬合と顎運動に関連する筋の主な名称や作用および閉鎖経路について ③Angleの分類および高橋分類について * 歯科矯正学 (第6版) p 43-65を読んでくること。</p> <p>事前学修時間：90分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：無 学修媒体：配布プリント、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念 d 不正咬合</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 6 不正咬合病因・病態 ア 正常咬合の概念と成立の条件 イ 不正咬合の種類 ウ 不正咬合の分類</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ①矯正治療の目的と意義を説明できる。 ②正常咬合の概念と成立・保持条件を説明できる。 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。</p>	* 根岸 慎一
2020/04/13 (月) 3時限 13:10～14:40	<p>〔講義〕第4回 不正咬合の原因について</p>	<p>【授業の一般目標】</p> <p>不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、不正咬合の原因について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 不正咬合の原因の環境的要因について述べることができる。 不正咬合の原因の遺伝的要因について述べることができる。 不正咬合の先天的原因について述べることができる。 不正咬合の後天的原因について述べることができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目：不正咬合の原因について * 歯科矯正学 (第6版) p 66-115を読んでくること</p> <p>事前学修時間：90分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：90分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 6 不正咬合病因・病態 エ 不正咬合の原因</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。</p>	* 葛西 一貴
2020/04/13 (月) 4時限	<p>(実習) 第2回 口腔模型の製作</p>	<p>【授業の一般目標】</p> <p>不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を</p>	* 葛西 一貴 * 五関 たけみ

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
14:50~16:20	(実習) 第2回 ・口腔模型の製作	<p>図るために、診断に必要な口腔模型のための印象採得を行うことができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 印象採得に適したトレーを選択できる。 3. 必要な歯列・小帯・歯肉形態を印記できる。 4. 患者の痛みに配慮した印象採得ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：診断用模型に再現される解剖学的構造について 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有：相互実習により口腔内の印象採得を行い、診断用口腔模型を製作する。 学修媒体：歯科矯正学基礎実習書</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の診断 ア 診療</p> <p>【コアカリキュラム】 F シミュレーション実習 (模型実習・相互演習 (実習)) F-3 基本的臨床技能 F-3-1) 共通事項 ⑤概形印象採得が実施できる。 ⑥研究用模型が製作できる。</p>	*榎本 豊 *石井 かおり *清水 真美 *菊田 純 *正田 拓史 *今村 竜太郎 *杉森 匡 *中山 瑛加 *葛西 絵美 *小松 昌平 *齋藤 奈月 *根岸 慎一 *石川 貴博
2020/04/20 (月) 2時限 10:40~12:10	[講義] 第5回 ・不正咬合の予防	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、不正咬合の予防について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 不正咬合の予防の目的を述べることができる。 3. 乳歯列期における予防を説明できる。 4. 混合歯列期における予防を説明できる。 5. 永久歯列期における予防を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①予防矯正について ②抑制矯正について *歯科矯正学 (第6版) p116-121を読んでもらうこと。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の私用に基づく復習。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 5 歯列・咬合異常の予防 ア 歯列・咬合異常の要因</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。</p>	*葛西 一貴
2020/04/20 (月) 3時限 13:10~14:40	[講義] 第6回 ・矯正用材料 ・矯正用器械・器具	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正臨床で用いる矯正用材料・矯正用器械器具について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 矯正用材料としての金属材料種類および特徴を述べることができる。 3. 矯正用材料としてのゴム質ならびにレジン材料の所要性質を述べることができる。 4. 矯正用器材の特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①矯正用器材の種類について ②矯正用歯科材料について *歯科矯正学 (第6版) p208-214、384-400を読んでもらうこと。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。</p>	*清水 真美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/04/20 (月) 3時限 13:10~14:40	〔講義〕第6回 ・矯正用材料 ・矯正用器械・器具	事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布プリント、PCによるスライド 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器 10 歯科矯正用材料 ア 線材料 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器 10 歯科矯正用材料 イ バンド、ブラケット、チューブ ウ エラスティック材、コイルスプリング エ 接着用材料 オ 床用レジン、熱可塑性樹脂 【コアカリキュラム】 D 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具） D-1 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）の特性と用途 ③診療用器械・器具の構造と特性を説明できる。 D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 ④歯科矯正用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ④矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。	*清水 真美
2020/04/20 (月) 4時限 14:50~16:20	(実習)第3回 ・ワイヤー屈曲 ・自在鑑着	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正装置の作製に必要な線屈曲と自在ろう着について学ぶ。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 0.9mm線の屈曲ができる。 3. 自在ろう着ができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①金属線の屈曲に応じたプライヤーの選択について ②自在ろう着の方法について 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有：所定の形態に0.9mmのCo-Cr合金線を屈曲する。また、舌側弧線装置の製作を想定し、補助弾線のろう着に必要な自在ろう着法を実践する。 学修媒体：プライヤー類、ブローパイプ、線材料 【学修方略（LS）】 実習 【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器 10 歯科矯正用材料 ア 線材料 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ④矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。	*葛西 一貴 *五関 たけみ *榎本 豊 *石井 かおり *清水 真美 *菊田 純 *疋田 拓史 *今村 竜太郎 *杉森 匡 *中山 瑛加 *葛西 絵美 *小松 昌平 *齋藤 奈月 *根岸 慎一 *石川 貴博
2020/04/27 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕平常試験 ①および解説講義	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、第1回から第6回までの講義内容の理解度について学ぶ。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 第1回から第6回までの講義内容を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：第1回から第6回までの講義内容について 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無	*葛西 一貴 *五関 たけみ *清水 真美 *根岸 慎一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/04/27 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕 平常試験 ①および解説講義	<p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 e 不正咬合の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ①矯正治療の目的と意義を説明できる。 ②正常咬合の概念と成立・保持条件を説明できる。 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。 ④矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。</p>	*葛西 一貴 *五関 たけみ *清水 真美 *根岸 慎一
2020/04/27 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕 第7回 ・形態検査1	<p>【授業の一般目標】 〔講義〕 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、診断に必要な形態検査について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 初診から治療終了までのプロセスを説明することができる。 3. 一般検査、全身的検査および局所的検査の項目を列挙できる。 4. 顔面写真による顔面形態の検査について説明できる。 5. 口腔模型分析について説明できる。 6. 頭部X線規格写真の特徴および重要性について説明できる。 7. 頭部X線規格写真分析の計測点および基準平面を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①歯科矯正臨床における一般的診断項目について ②平行模型と顎態模型について ③・セットアップモデルについて ④頭部エックス線規格写真分析で用いる計測点について * 歯科矯正学 (第6版) p135-169を読んでくること。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念 d 不正咬合</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。 F シミュレーション実習 (模型実習・相互演習 (実習)) F-3 基本的臨床技能 F-3-6) 矯正歯科・小児歯科治療 ④模型および頭部エックス線規格写真等より、分析、診断、治療計画を立案できる。</p>	*五関 たけみ
2020/04/27 (月) 4時限 14:50～16:20	〔講義〕 第8回 形態検査2	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、診断に必要な形態検査について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 頭部エックス線規格写真の特徴および重要性について説明できる。 3. 頭部エックス線規格写真分析の計測点および基準平面を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：頭部エックス線規格写真分析で用いる計測点・基準平面について * 歯科矯正学 (第6版) p135-169を読んでくること。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PCによるスライド</p>	*五関 たけみ

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/04/27 (月) 4時限 14:50～16:20	〔講義〕第8回 形態検査2	<p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の診断 イ 検査</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。</p>	*五関 たけみ
2020/05/11 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第9回 ・形態検査3	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、診断に必要な形態検査について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 頭部エックス線規格写真分析の計測点および基準平面を説明できる。 3. 各種頭部エックス線規格写真分析法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①頭部エックス線規格写真分析で用いる計測点・計測平面について ②各種セファロ分析法について *歯科矯正学 (第6版) p135-169を読んでくること。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の診断 イ 検査</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。</p>	*五関 たけみ
2020/05/11 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕第10回 ・形態検査4	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、診断に必要な形態検査について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 頭部エックス線規格写真分析の計測点および基準平面を説明できる。 3. 各種頭部エックス線規格写真分析法を説明できる。 4. セファロ分析の結果から不正咬合の特徴を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①頭部エックス線規格写真分析で用いる計測点、計測平面について ②各種セファロ分析法について ③計測データからわかる不正咬合の特徴について *歯科矯正学 (第6版) p135-169を読んでくること。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 8 主要な症候 イ 口腔・顎顔面領域の症候 e 歯列・咬合の症候 (不正咬合)</p>	*五関 たけみ

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/05/11 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕 第10回 ・形態検査 4	【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。	*五関 たけみ
2020/05/11 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第4回 ・セファロ分析 1	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、セファロ分析および診断について学ぶ。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. セファロ分析に必要な計測点・計測平面の設定ができる。 3. セファロ分析を行いポリゴン図表を完成できる。 4. 計測されたデータから不正咬合の特徴を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：セファロ分析について 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *セファログラムのトレース図を用い、各自でセファロ分析を行う。得られた結果について、担当教員とディスカッションを行う。 学修媒体：鉛筆、分度器、定規、第7～10回の講義で配布された資料および教科書 (第5版 歯科矯正学) 【学修方略 (LS)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の診断 ウ 診断 【コアカリキュラム】 F シミュレーション実習 (模型実習・相互演習 (実習)) F-3 基本的臨床技能 F-3-6) 矯正歯科・小児歯科治療 ④模型および頭部エックス線規格写真等より、分析、診断、治療計画を立案できる。	*葛西 一貴 *五関 たけみ *榎本 豊 *石井 かおり *清水 真美 *菊田 純 *正田 拓史 *今村 竜太郎 *杉森 匡 *中山 瑛加 *葛西 絵美 *小松 昌平 *齋藤 奈月 *根岸 慎一 *石川 貴博
2020/05/18 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕 第11回 ・機能検査	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、診断に必要な機能検査について学ぶ。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 機能検査の項目を列挙できる。 3. 各種機能検査法について説明できる。 4. 顎運動の検査と矯正診断とのかかわりを説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：種々の機能検査法について *歯科矯正学 (第6版) p169-174を読んでくるように。 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PCによるスライド 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の診断 イ 検査 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。	*齋藤 勝彦
2020/05/18 (月) 3時限 13:10～14:40	(実習) 第5回 ・舌側弧線装置 1	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、舌側弧線装置について学ぶ。 【行動目標 (SBOs)】	*葛西 一貴 *五関 たけみ *榎本 豊 *石井 かおり *清水 真美 *菊田 純

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/05/18 (月) 3時限 13:10～14:40	(実習) 第5回 ・舌側弧線装置 1	<p>1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 舌側弧線装置の構成・適応症・歯の移動様式を説明できる。 3. タイポドント (矯正用咬合器) に人工歯を排列して装置製作の準備ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①舌側弧線装置の基本構造について ②舌側弧線装置の適応症例について 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *タイポドントを用いて歯根付き人工歯の配列を行う。 タイポドントを用いて舌側弧線装置の製作手順を学び実践する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論1 成長発育に関連した疾患・病態 9 矯正装置 ア 唇舌側弧線装置 a リンガルアーチ<舌側弧線装置></p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ⑤矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。</p>	<p>* 田 拓史 * 今村 竜太郎 * 杉森 匡 * 中山 瑛加 * 葛西 絵美 * 小松 昌平 * 齋藤 奈月 * 根岸 慎一 * 石川 貴博</p>
2020/05/18 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第6回 ・舌側弧線装置 2	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、舌側弧線装置について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. タイポドント上で大白歯のバンドの調整ができる。 3. 舌側弧線装置作製の作業模型を作ることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①バンドの試適に使用する矯正用器具について ②舌側弧線装置作製の手順について 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *タイポドントを用いて舌側弧線装置の製作手順を学び実践する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論1 成長発育に関連した疾患・病態 9 矯正装置 ア 唇舌側弧線装置 a リンガルアーチ<舌側弧線装置></p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ④矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。 ⑤矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。</p>	<p>* 葛西 一貴 * 五関 たけみ * 榎本 豊 * 石井 かおり * 清水 真美 * 菊田 純 * 田村 拓史 * 今村 竜太郎 * 中山 瑛加 * 葛西 絵美 * 小松 昌平 * 齋藤 奈月 * 根岸 慎一 * 石川 貴博 * 杉森 匡</p>
2020/05/25 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕 平常試験 ②及び解説講義	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、第7回から第11回までの講義内容の理解度について確認する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 第7回から第11回までの講義内容を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：第7回から第11回までの講義内容について 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p>	<p>* 葛西 一貴 * 五関 たけみ * 齋藤 勝彦</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/05/25 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕 平常試験 ②及び解説講義	<p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の診断 ウ 診断</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。</p>	<p>* 葛西 一貴 * 五関 たけみ * 齋藤 勝彦</p>
2020/05/25 (月) 3時限 13:10～14:40	(実習) 第7回 ・舌側弧線装置 3	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、舌側弧線装置について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 矯正用バンドにSTロックを鑑着できる。 3. 主線およびSTロック脚部を屈曲しろう着できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①舌側弧線装置の基本構造について ②維持装置（STロック）の攻勢について 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *タイポドントを用いて舌側弧線装置の製作手順を学び実践する。</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 9 矯正装置 ア 唇舌側弧線装置 a リンガルアーチ<舌側弧線装置></p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ④矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。 ⑤矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。</p>	<p>* 葛西 一貴 * 五関 たけみ * 榎本 豊 * 石井 かおり * 清水 真美 * 菊田 純 * 正田 拓史 * 今村 竜太郎 * 杉森 匡 * 中山 瑛加 * 葛西 絵美 * 小松 昌平 * 齋藤 奈月 * 根岸 慎一 * 石川 貴博</p>
2020/05/25 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第8回 ・舌側弧線装置 4	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、舌側弧線装置について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 主線のろう着ができる。 3. 舌側弧線装置のタイポドントへの合着ができる。 4. 補助弾線を自在ろう着できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①舌側弧線装置の基本構造について ②補助弾線の種類について 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *タイポドントを用いて舌側弧線装置の製作手順を学び実践する。</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 9 矯正装置 ア 唇舌側弧線装置 a リンガルアーチ<舌側弧線装置></p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療</p>	<p>* 葛西 一貴 * 五関 たけみ * 榎本 豊 * 石井 かおり * 清水 真美 * 菊田 純 * 正田 拓史 * 今村 竜太郎 * 杉森 匡 * 中山 瑛加 * 葛西 絵美 * 小松 昌平 * 齋藤 奈月 * 根岸 慎一 * 石川 貴博</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/05/25 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第8回 ・舌側弧線装置 4	E-4-1) 不正咬合の治療 ④矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。 ⑤矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。	* 葛西 一貴 * 五関 たけみ * 榎本 豊 * 石井 かおり * 清水 真美 * 菊田 純 * 疋田 拓史 * 今村 竜太郎 * 杉森 匡 * 山西 瑛加 * 小松 絵美 * 齋藤 昌平 * 藤岸 奈月 * 石川 慎博
2020/06/01 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕 第13回 ・乳歯列期および混合歯列期の治療 1	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、治療学概論・治療計画の立案・乳歯列期および混合歯列期の治療について学ぶ。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 検査および症例分析の結果を総合評価できる。 3. 矯正治療の開始時期と流れについて説明できる。 4. 乳歯列期における治療について説明できる。 5. 乳歯列期の治療についてその概略を述べることができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①予防矯正、抑制矯正、限局矯正、本格矯正について ②各種不正咬合の特徴 * 歯科矯正学 (第6版) p 263-281 を読んでくること。 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PCによるスライド 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302 教室、第5 実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 イ 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 ア 不正咬合予防 キ 治療中の管理 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。	* 石井 かおり
2020/06/01 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕 第14回 ・乳歯列期および混合歯列期の治療 2	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、乳歯列期および混合歯列期の治療について学ぶ。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 乳歯混合歯列期の治療目標を説明できる。 3. 予防矯正について説明できる。 4. 抑制矯正について説明できる。 5. 早期治療の必要性を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①乳歯・混合歯列期の治療目標について ②早期治療の必要な不正状態とは * 歯科矯正学 (第6版) p 263-281 を読んでくること。 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PCによるスライド 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302 教室、第5 実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論	* 石井 かおり

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/06/01 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕第14回 ・乳歯列期および 混合歯列期の治療 2	各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 イ 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。	*石井 かおり
2020/06/01 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第8回 ・舌側弧線装置 5	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、舌側弧線装置について学ぶ。 【行動目標 (SBOs)】 1. 舌側弧線装置のタイポドントへの合着ができる。 2. 補助弾線を自在に着できる。 3. 補助弾線の調整ができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①補助弾線の調整に必要な矯正器具について ②補助弾線の種類について 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有：舌側弧線装置を完成させる。補助弾線の調整を行い、タイポドント上で舌側弧線装置による歯の移動の実際を観察する。 【学修方略 (LS)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 9 矯正装置 ア 唇舌側弧線装置 a リンガルアーチ<舌側弧線装置> 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ⑤矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。	*葛西 一貴 *五関 たけみ *榎本 豊 *石井 かおり *清水 真美 *菊田 純 *正田 拓史 *今村 竜太郎 *杉森 匡 *中山 瑛加 *葛西 絵美 *小松 昌平 *齋藤 慎一 *根岸 貴博 *石川 貴博
2020/06/08 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第14回 ・乳歯列期および 混合歯列期の治療 3	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、乳歯列期および混合歯列期の治療について学ぶ。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 乳歯混合歯列期の治療目標を説明できる。 3. 予防矯正について説明できる。 4. 抑制矯正について説明できる。 5. 早期治療の必要性を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①乳歯・混合歯列期の治療目標について ②早期治療の必要な不正状態とは * 歯科矯正学 (第6版) p 263-281を読んでくること。 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PCによるスライド 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 イ 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。	*石井 かおり
2020/06/08 (月)	〔講義〕第15回	【授業の一般目標】	*石井 かおり

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
3時限 13:10～14:40	・矯正装置	<p>不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、乳歯列期および混合歯列期の治療で用いる矯正装置について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 乳歯列および混合歯列期の治療に用いる矯正装置について述べるができる。 3. 舌側弧線装置の構造および適応症について説明できる。 4. ヘッドギア、チンキャップおよび上顎前方牽引装置の使用目的および作用効果について説明できる。 5. 床矯正装置の種類および使用目的について説明できる。 6. Rapid expansion の作用効果について述べるができる。 7. Slow expansion の作用効果について述べるができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①乳歯混合歯列期に使用する矯正装置について ②各種矯正装置の特徴について * 歯科矯正学（第6版） p 215-262を読んでくること。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、P Cによるスライド</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の診断 エ 治療計画</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ⑤矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。</p>	*石井 かおり
2020/06/08（月） 4時限 14:50～16:20	（実習）第9回 ・矯正用器械・器具1	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正治療で使用する器具および装置の実際について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 矯正治療で使用するプライヤーを列挙できる。 3. アーチワイヤー製作に必要な器具・器材を説明できる。 4. 各種矯正装置の特徴について説明できる。 5. 各種矯正装置の取り扱いを説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①矯正用プライヤーについて ②矯正装置について * 講義で配布したプリントを復習してくる。こと。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有：矯正用プライヤーを実際に使用してみることで、器具の特徴を学ぶ。また、矯正装置の患者説明用見本を用いて、装置の特徴および、その取扱い法について学ぶ。</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 イ 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 ケ 歯・歯周組織に対する基本的処置 f 不正咬合の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。 ④矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。 ⑤矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。</p>	*葛西 一貴 *五関 たけみ *榎本 豊 *石井 かおり *清水 真美 *菊田 純 *疋田 拓史 *今村 竜太郎 *杉森 匡 *中山 瑛加 *葛西 絵美 *小松 昌平 *齋藤 奈月 *根岸 慎 *石川 貴博
2020/06/15（月）	【講義】第16回	【授業の一般目標】	*葛西 一貴

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2時限 10:40～12:10	・矯正歯科治療における抜歯	不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科治療における抜歯について学ぶ。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 矯正歯科治療における抜歯の意義について説明できる。 3. 矯正歯科治療における抜歯の部位と数について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①抜歯の意義について ②抜歯の有無に影響する因子について * 歯科矯正学（第6版） p175-182を読んでおくこと。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PCによるスライド 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の診断 エ 治療計画 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。	* 葛西 一貴
2020/06/15（月） 3時限 13:10～14:40	〔講義〕第17回 ・治療方針の立案	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科治療における治療方針の立案について学ぶ。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 矯正歯科治療における抜歯の部位と数について説明できる。 3. 連続抜去法について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：連続抜去法について * 歯科矯正学（第6版） p183-190を読んでおくこと。 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PCによるスライド 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の診断 エ 治療計画 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 イ 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。	* 葛西 一貴
2020/06/15（月） 4時限 14:50～16:20	（実習）第9回 ・矯正用器械・器具2	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正治療で使用する器具および装置の実際について学ぶ。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 矯正治療で使用するブライヤーを列挙できる。 3. アーチワイヤー製作に必要な器具・器材を説明できる。 4. 各種矯正装置の特徴について説明できる。 5. 各種矯正装置の取り扱いを説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】	* 葛西 一貴 * 五関 たけみ * 榎本 豊 * 石井 かおり * 清水 真美 * 菊田 純 * 疋田 拓史 * 今村 竜太郎 * 杉森 匡 * 中山 瑛加 * 葛西 絵美 * 小松 昌平 * 齋藤 奈月

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/06/15 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第9回 ・矯正用器械・器具2	<p>事前学修項目：①矯正用ブライヤーについて ②矯正装置について *講義で配布したプリントを復習してくる。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有：矯正用ブライヤーを実際に使用してみることで、器具の特徴を学ぶ。また、矯正装置の患者説明用見本を用いて、装置の特徴および、その取扱い法について学ぶ。</p> <p>【学修方略 (L S)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 イ 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 ケ 歯・歯周組織に対する基本的処置 f 不正咬合の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。 ④矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。 ⑤矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。</p>	*根岸 慎一 *石川 貴博
2020/06/22 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕 平常試験 ③および解説講義	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、第12回から第17回までの講義内容の理解度について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 第12回から第17回までの講義内容を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：第12回から第17回までの講義内容について 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 イ 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 8 矯正力と固定 エ 固定</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。 ⑤矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。 ⑥矯正治療によって起こる生体反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。</p>	*葛西 一貴 *五関 たけみ *石井 かおり
2020/06/22 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕 第18回 ・矯正歯科治療学 ・矯正力	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科治療を行う上で必要な矯正力の種類について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 矯正力の種類を挙げることができる。 3. 部位による固定の種類を説明できる。 4. 抵抗の性質による固定の種類を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①矯正力の種類 ②矯正装置と矯正力 *歯科矯正学 (第6版) p195-199を読んでおくこと。 事前学修時間：30分</p>	*根岸 慎一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/06/22 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕第18回 ・矯正歯科治療学 ・矯正力	事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布プリント、PCによるスライド 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 8 矯正力と固定 エ 固定 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 8 矯正力と固定 ア 狭義の矯正力 イ 顎整形力 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。 ⑤矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。	*根岸 慎一
2020/06/22 (月) 4時限 14:50～16:20	〔講義〕第19回 ・矯正歯科治療における固定	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科治療を行う上で必要な固定の種類について学ぶ。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 抜歯症例における抜歯空隙利用のための固定の強さについて説明できる。 3. 加强固定を説明できる。 4. (Tweed)の準備固定を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①固定の種類について ②加强固定について ③Tweedの準備固定について * 歯科矯正学（第6版）p200-207を読んでおくこと。 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布プリント、PCによるスライド 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 8 矯正力と固定 エ 固定 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 8 矯正力と固定 ア 狭義の矯正力 イ 顎整形力 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。	*根岸 慎一
2020/06/29 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第20回 ・矯正力 ・生体反応	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正力と生体反応について学ぶ。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎整形力について説明できる。 3. 機能的矯正力について説明できる。 4. 歯の傾斜移動と歯体移動について説明できる。 5. 矯正力に伴う生体反応を説明できる。 6. 圧迫側と牽引側の組織変化を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①矯正力の種類について ②歯の移動様式について ③矯正力	*五関 たけみ

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/06/29 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第20回 ・矯正力 ・生体反応	に伴う生体反応について * 歯科矯正学 (第6版) p 122-134を読んでおくこと。 事前学修時間: 60分 事後学修項目: 授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間: 60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無: 無 学修媒体: 配布プリント、PCによるスライド 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 8 矯正力と固定 ウ 生体反応 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ⑥矯正治療によって起こる生体反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。	*五関 たけみ
2020/06/29 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕第21回 ・永久歯列期の治療 1	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、永久歯列期の治療について学ぶ。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. マルチブラケット装置の特徴を説明できる。 3. アーチワイヤーの屈曲について説明できる。 4. Edgewise 法による治療の流れを説明できる。 5. Begg 法の特徴について説明できる。 6. 各種不正咬合の治療を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: ①永久歯列期の不正咬合の特徴について ②永久歯列期の矯正治療の目標について ③永久歯列期の矯正治療に使用する装置について * 歯科矯正学 (第6版) p 285-334を読んでおくこと。 事前学修時間: 90分 事後学修項目: 授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間: 60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無: 無 学修媒体: 配布プリント、PCによるスライド 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 ウ 永久歯列期の不正咬合の治療 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論 VII 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 e 不正咬合の治療 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。	*清水 真美
2020/06/29 (月) 4時限 14:50～16:20	〔講義〕第22回 ・永久歯列期の治療 2	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、永久歯列期の治療について学ぶ。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. マルチブラケット装置 (Edgewise 装置) の構成および特徴について説明できる。 3. Edgewise 装置のメカニズムについて説明できる。 4. Edgewise 法による治療の流れを説明できる。 5. アーチワイヤーの屈曲について説明できる。 6. Begg 法の特徴について説明できる。 7. 各種不正咬合の治療を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: ①永久歯列期の不正咬合の特徴について ②永久歯列期の矯正治療の目標について ③永久歯列期の矯正治療に使用する装置について * 歯科矯正学 (第6版) p 285-334を読んでおくこと。	*清水 真美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/06/29 (月) 4時限 14:50～16:20	〔講義〕第22回 ・永久歯列期の治療 2	<p>事前学修時間：90分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布プリント、PCによるスライド</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 ウ 永久歯列期の不正咬合の治療</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 e 不正咬合の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。 ⑤矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。</p>	*清水 真美
2020/07/06 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第23回 ・他科との共同による治療 1	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、他科との共同による治療について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口蓋裂の治療法について説明できる。 3. 唇顎口蓋裂患者の顎骨および咬合の特徴について説明できる。 4. 唇顎口蓋裂患者の治療の流れについてその概略を説明できる。 5. 口腔領域の奇形について述べる事ができる。 6. 顎変形症の原因、治療法について説明できる。 7. 外科矯正治療の目的および適応症について述べる事ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①他科との協同を必要とする矯正治療について ②口蓋裂の発生原因について * 歯科矯正学（第6版）p 336-369を読んでおくこと。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布プリント、PCによるスライド</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 エ 先天性疾患を伴う不正咬合の治療</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念 g 先天異常 12 治療の基礎・基本手技 ケ 歯・歯周組織に対する基本的処置 f 不正咬合の治療 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態 ア 主な病因・病態 a 先天異常</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。</p>	*榎本 豊
2020/07/06 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕第24回 ・他科との共同による治療 2	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、他科との共同による治療について学ぶ。</p>	*榎本 豊

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
	〔講義〕第24回 ・他科との共同による治療2	<p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 唇顎口蓋裂患者の治療の流れについてその概略を説明できる。 顎変形症の原因、治療法について説明できる。 外科矯正治療の目的および適応症について述べるができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：顎変形症について * 歯科矯正学（第6版） p 336-369を読んでおくこと。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布プリント、PCによるスライド</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 オ 顎変形症の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。</p>	*榎本 豊
2020/07/06（月） 4時限 14:50～16:20	〔講義〕第25回 ・口腔筋機能療法	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、口腔筋機能療法について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 口腔筋機能療法について説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①不正咬合の原因となる習癖について ②矯正治療に障害となる口腔習癖について * 歯科矯正学（第6版） p 282-284を読んでおくこと。 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PC</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 5 歯列・咬合異常の予防 エ 口腔習癖とその対応</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。 E-4-2) 小児の歯科治療 ⑫口腔習癖が歯列・咬合に及ぼす影響を説明できる。</p>	*葛西 一貴 高橋 治
2020/07/13（月） 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第26回 ・矯正歯科治療に伴う偶発症・口腔衛生管理	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科治療に伴う偶発症について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 矯正治療時に生じる偶発症について説明できる。 矯正装置装着中の口腔管理について説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①矯正治療に伴う偶発症について ②歯科矯正治療中の口腔形成管理について * 歯科矯正学（第6版） p 370-383を読んでおくこと。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p>	*榎本 豊

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/07/13 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第26回 ・矯正歯科治療に伴う偶発症・口腔衛生管理	アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PCによるスライド 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 キ 治療中の管理 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 ケ 偶発症 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ⑦矯正治療によって生じうる医原性障害を挙げ、その予防法と処置を説明できる。	*榎本 豊
2020/07/13 (月) 3時限 13:10～14:40	(実習) 第11回 ・セファロ分析・ 模型分析および診断1	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、セファロ分析および診断について学ぶ。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 矯正治療の診断のためのセファロ分析を説明できる。 3. 模型分析のデータと併せて、治療計画の立案ができる。 4. マルチブラケット装置について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：形態分析・機能分析について（復習） 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *各自でセファロ分析を行い、与えられた模型分析データとともに治療計画の立案を行い、担当者とディスカッションを行う。 学修媒体：分度器、定規、セファロトレース図、機能分析および形態分析の講義で配布したプリント 【学修方略（LS）】 実習 【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の診断 エ 治療計画 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 ウ 永久歯列期の不正咬合の治療 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。	*葛西 一貴 *五関 たけみ *榎本 豊 *石井 かおり *清水 真美 *菊田 純 *疋田 拓史 *今村 竜太郎 *杉森 匡 *中山 瑛加 *葛西 絵美 *小松 昌平 *齋藤 奈月 *根岸 慎一 *石川 貴博
2020/07/13 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第12回 ・セファロ分析・ 模型分析および診断2	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、セファロ分析および診断について学ぶ。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 矯正治療の診断のためのセファロ分析を説明できる。 3. 模型分析のデータと併せて、治療計画の立案ができる。 4. マルチブラケット装置について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：形態分析・機能分析について（復習） 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *各自でセファロ分析を行い、与えられた模型分析データとともに治療計画の立案を行い、担当者とディスカッションを行う。	*葛西 一貴 *五関 たけみ *榎本 豊 *石井 かおり *清水 真美 *菊田 純 *疋田 拓史 *今村 竜太郎 *杉森 匡 *中山 瑛加 *葛西 絵美 *小松 昌平 *齋藤 奈月 *根岸 慎一 *石川 貴博

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/07/13 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第12回 ・セファロ分析・ 模型分析および診 断2	学修媒体：分度器、定規、セファロトレース図、機能分析および形態分析の講 義で配布したプリント 【学修方略 (L S)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室、第5 実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の診断 エ 治療計画 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 1 0 不正咬合の治療 ウ 永久歯列期の不正咬合の治療 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明で きる。	* 葛西 一貴 * 五関 たけみ * 榎本 豊 * 石井 かおり * 清水 真美 * 菊田 純 * 疋田 拓史 * 今村 竜太郎 * 杉森 匡 * 中山 瑛加 * 西松 絵美 * 齋藤 昌平 * 藤岸 奈月 * 根岸 慎一 * 石川 貴博
2020/07/20 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕 平常試験 ④および解説講義	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を 図るために、第18回から第26回までの講義内容の理解度について学ぶ。 【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 第18回から第26回までの講義内容を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：第18回から第26回までの講義内容について 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室、第5 実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 1 0 不正咬合の治療 オ 顎変形症の治療 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 1 0 不正咬合の治療 エ 先天性疾患を伴う不正咬合の治療 キ 治療中の管理 ク 保定 ケ 偶発症 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明で きる。	* 葛西 一貴 * 五関 たけみ * 榎本 豊 * 清水 真美 * 根岸 慎一
2020/07/20 (月) 3時限 13:10～14:40	(実習) 第13回 ・セファロ分析・ 模型分析および診 断3	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を 図るために、セファロ分析および模型分析・診断について学ぶ。 【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 側面頭部エックス線規格写真からセファロ分析に必要なトレース図を作成す ることができる。 3. 矯正治療の診断に必要な模型分析を行うことができる。 4. 診断に必要なセファロ分析を行うことができる。 5. 得られたデータを元に、治療計画の立案を行うことができる。 6. マルチブラケット装置について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：形態分析・機能分析について (復習) 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 * 各自のセファログラムからトレース図を作成し、各自の口腔模型を用いて 分析を行う。そのデータをもとに治療計画の立案を行う。	* 葛西 一貴 * 五関 たけみ * 榎本 豊 * 石井 かおり * 清水 真美 * 菊田 純 * 疋田 拓史 * 今村 竜太郎 * 杉森 匡 * 中山 瑛加 * 西松 絵美 * 齋藤 昌平 * 藤岸 奈月 * 根岸 慎一 * 石川 貴博

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/07/20 (月) 3時限 13:10～14:40	(実習) 第13回 ・セファロ分析・ 模型分析および診 断3	学修媒体：分度器、定規、セファロトレース図、機能分析および形態分析の講 義で配布したプリント 【学修方略 (LS)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の診断 エ 治療計画 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 ウ 永久歯列期の不正咬合の治療 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明で きる。	* 葛西 一貴 * 五関 たけみ * 榎本 豊 * 石井 かおり * 清水 真美 * 菊田 純 * 疋田 拓史 * 今村 竜太郎 * 杉森 匡 * 中山 瑛加 * 西松 絵美 * 齋藤 昌平 * 藤奈 月一 * 根岸 慎一 * 石川 貴博
2020/07/20 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第14回 ・セファロ分析・ 模型分析および診 断4 ・器具返却	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を 図るために、セファロ分析・模型分析および診断について学ぶ。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 分析データをもとに治療計画の立案ができる。 3. マルチブラケット装置について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：形態分析・機能分析について (復習) 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *各自のセファログラムからトレース図を作成し、各自の口腔模型を用いて 分析を行う。そのデータをもとに治療計画の立案を行う。 学修媒体：分度器、定規、セファロトレース図、機能分析および形態分析の講 義で配布したプリント 【学修方略 (LS)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の診断 エ 治療計画 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 ウ 永久歯列期の不正咬合の治療 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明で きる。	* 葛西 一貴 * 五関 たけみ * 榎本 豊 * 石井 かおり * 清水 真美 * 菊田 純 * 疋田 拓史 * 今村 竜太郎 * 杉森 匡 * 中山 瑛加 * 西松 絵美 * 齋藤 昌平 * 藤奈 月一 * 根岸 慎一 * 石川 貴博
2020/08/24 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕 第27回 再試験および実力 試験	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を 図るために、歯科矯正学の講義内容の理解度について確認する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 各種不正咬合の治療を説明できる。 3. マルチブラケット装置による治療を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：歯科矯正学講義の第1回～第26回までの内容について復習する。 事前学修時間：90分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：教科書および講義資料など 【学修方略 (LS)】 その他	* 葛西 一貴 * 五関 たけみ * 榎本 豊 * 石井 かおり * 清水 真美 * 根岸 慎一 * 齋藤 勝彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/08/24 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第27回 再試験および実力 試験	<p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の診断 エ 治療計画</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 6 人体の発生・成長・発達・加齢 ウ 口腔・顎顔面の成長・発育 b 上顎骨・下顎骨の成長の特徴（成長の時期、骨形成様式） 7 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念 d 不正咬合 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 e 不正咬合の治療 総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器 10 歯科矯正用材料 ア 線材料 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 6 不正咬合病因・病態 エ 不正咬合の原因 7 不正咬合の診断 エ 治療計画 8 矯正力と固定 エ 固定 10 不正咬合の治療 イ 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療 ウ 永久歯列期の不正咬合の治療 オ 顎変形症の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。</p>	<p>*葛西 一貴 *五関 たけみ *榎本 豊 *石井 かおり *清水 真美 *根岸 慎一 *齋藤 勝彦</p>
2020/08/24 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕第28回 矯正治療の実際	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、永久歯列期の治療について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 各種不正咬合の治療を説明できる。 3. マルチブラケット装置による治療を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：永久歯列期の矯正治療について 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：PC</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の診断 エ 治療計画</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態 10 不正咬合の治療 ウ 永久歯列期の不正咬合の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。</p>	<p>*葛西 一貴 *齋藤 勝彦</p>
2020/08/24 (月) 4時限 14:50～16:20	〔講義〕第29回 矯正治療の実際	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、永久歯列期の治療について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p>	<p>*葛西 一貴 *齋藤 勝彦</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/08/24 (月) 4時限 14:50～16:20	〔講義〕第29回 矯正治療の実際	<p>1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 各種不正咬合の治療を説明できる。 3. マルチブラケット装置による治療を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：永久歯列期の矯正治療について 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：P C</p> <p>【学修方略（L S）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 3 0 2 教室、第5 実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の診断 エ 治療計画</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 1 0 不正咬合の治療 ウ 永久歯列期の不正咬合の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。</p>	* 葛西 一貴 * 齋藤 勝彦